

## ちいさ

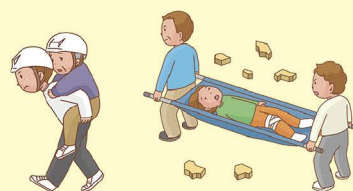


〈発行〉福生市町会長協議会 会長 撰梅 敏夫

### 今号の主な見出し

- 1面 連載 災害時、生き残るための防災対策 第2回「助け合う」
- 2面～4面 町会・自治会紹介
- 4面～8面 福生夏祭り特集

## 連載 「災害時、生き残るための防災対策」 第2回「助け合う」



日本には古くから、「向こう三軒両隣」という言葉があります。具体的には自分の家の向かい側3軒と左右2軒の合計5軒を指し、親しく交際する近くの家をいいます。集合住宅の場合は少し事情が変わってくるかもしれません。

また、「遠くの親類より近くの他人」という言葉もあり、遠方にいる親類よりも近隣にいる他人の方が頼りになる、疎遠な親類よりも親密な他人のほうが助けになるという意味です。

一方、阪神・淡路大震災の経験から次のようなデータもあります。

**72時間の壁**：阪神淡路大震災のデータ結果が根拠。震災発生後1日目の救出者に対する生存者の割合は74.9%、2日目は24.2%、3日目は15.1%。しかし、これが4日目になると5.4%、5日目に至ってはわずか4.8%にまで低下している。

**市民による救出者3倍**：阪神・淡路大震災では、被災がれきの下から市民によって救出された人は、約2万7,000人、警察・消防・自衛隊によって救出された人（約8,000人）の3倍以上であった。

災害が発生した時には、これまでの教訓から消防や行政機関等ではすぐに救助等の対応ができないことが考えられます。まず、自分の周りを整理したあと、「向こう三軒両隣」「遠くの親類より近くの他人」で助け合うことが大切です。

震災直後、私たちが生き延びて行うのは何か考えてみましょう。

- ① 家族の安否確認
- ② ブレーカーの切断（二次災害を防ぐ）、初期消火（災害の拡大を防ぐ）
- ③ ご近所（向こう三軒両隣）、避難行動要支援者※等の安否確認
  - 可能なら被災者の救出
- ④ ③などの情報の提供（市、町会・自治会「自主防災組織」）
- ⑤ 正確な情報の入手
- ⑥ 一時避難所への避難（二次災害への対応）



※避難行動要支援者……大地震、豪雨、大火災などが発生した時に、さまざまな理由で、自力で安全な場所へ避難することが困難な方

参考：もっとキキタイマガジン：72時間の壁とは何か？企業が取るべき対処法やシーン別の過ごし方  
消防庁国民保護・防災部防災課：災害対応能力の維持向上のための地域コミュニティのあり方に関する検討会報告書（平成21年3月）